

Elly Hengeveld・他（著）、赤坂清和・他（監訳）

メイトランド四肢関節マニピュレーション

陶山哲夫（国際医療福祉大学大学院リハビリテーション学分野）

本書の原著の初版は、今から 40 年もの昔、1970 年に出版された。それから今日まで改訂されながら版を重ね、原著第 4 版を翻訳した日本語版が発行された。現在、四肢関節のマニピュレーションを扱った書籍は多数あるが、従来の書籍は医師が医師向けに執筆したものが多かった。しかし本書は、理学療法士が理学療法士のために執筆した系統的・包括的なテキストである。

本書は、四肢関節に対する手技の紹介と、他動運動による検査を詳細に論ずることを目的としている。第 1 版の著者である Maitland は、安定性と柔軟性という相反する性質の両方に重点を置いた。彼はそのコンセプトから、各手技を用いる際の力、幅、様式などを評価・決定する際の論理的な思考過程を紹介している。また、患者とコミュニケーションを取りつつマニピュレーションを実施するというユニークな方法が紹介されており、まさに臨床と教育の両方において有益な教科書である。

1～9 章において、モビライゼーションとマニピュ

レーション、コミュニケーション、手技の原理と方法、記録といったバックボーンが記述され、10 章以降で四肢関節の各論が述べられている。徒手理学療法最新の科学的根拠に基づいた統合モデルが紹介されており、国際生活機能分類 (ICF, WHO, 2001) に基づいて主観的検査の計画やプロセスが分かりやすく解説され、さらに関節の痛みのメカニズムに対する理学療法の重要性に着目し、他動運動の実施について述べている。また、付録として手技の動画を収めた CD-ROM が付いており、熟練者の手技を実際に目で見ることができるようになっている。

本書は埼玉医科大学の赤坂清和先生と杏林大学の斎藤昭彦先生の監訳の下、日本でも各分野の第一線で活躍されている理学療法の先生方が翻訳されたものである。四肢関節マニピュレーションの手技を紹介した優れた書籍であり、ぜひ一読をお勧めしたい。(B5 判変形 598 頁 定価 9,800 円＋税 医学映像教育センター刊 2010)